

まちのわだい

五年連続の日本一を達成

高遊原南消防本部の勇士たち

第三十七回全国消防救助技術大会が、八月二十九日北九州市で開かれ、高遊原南消防本部の福岡雄樹消防副士長（平田中）が、水上個人種目「複合検索」部門で連続優勝「水中検索救助」団体部門でも同本部チームが二度目の優勝を飾るなど、見事な成績を残しました。

「複合検索」という競技は、マスク、シユノーケル、足ひれを着けて、障害物を突破しながら水中の行方不明者を捜索する競技。昨年まで三連覇を達成した同本部の日置啓一消防士長（西原村）に続いて五年連続で頂点に立ちました。この競技では、荒牧竜治消防士（馬水北）も四位に入賞しました。

団体優勝を果たした「水中検索救助」は、四人一組で、第一泳者が水面を、第二泳者が水中をそれぞれ検索し、水没している要救助者（訓練用の人形）を発見して水面へ引き揚げた後、第三泳者と第四泳者が協力して要救助者を対岸まで搬送する競技。

リーダーの日置消防士長と

福岡消防副士長、松本卓実消防副士長（安永2町内）、片山誠也消防士（辻の城団地）のメンバーで、見事な技術とチームワークを発揮し、1分10秒2というすばらしいタイムで、東京消防庁と優勝を分け合いました。

個人優勝の福岡さんは「日置先輩が守り続けてきた栄冠を、絶対に途切れさせてははいけない、との一心でがんばりました」と頼もしく語っていました。



見事栄冠を手にした左から日置さん、福岡さん、松本さん、片山さん、荒牧さん。

企業立地協定の調印式

大日本スクリーン製造(株)と県・益城町

半導体製造装置などの製造・販売会社、大日本スクリーン製造(株)が、益城町小谷のくまもと臨空テクノパークに進出することになり、企業立地協定の調印式が8月19日、県庁知事応接室で行われました。

同社は、京都市に本社を置き、資本金540億円、年間売上2798億円（連結）、従業員5041人の企業で、半導体製造装置の部門では、売上高が世界のトップ10に入っている。

益城の工場は、2010年1月着工、2012年4月操業開始の予定。第一期工事として100億円を投資、最終的には500億円ほどの投資をするという。従業員は

当面300人（協力企業含む）。

調印式は、蒲島知事、橋本正博同社社長、住永町長の3者で行われ、固い握手を交わしました。



調印式後、堅い握手を交わす3人

好楽、楽太郎の二人会

大賑わいの「益城・熊日名人寄席」

益城町が、毎年敬老事業の一環として催している「益城・熊日名人寄席」が、9月17日町文化会館で開かれ、お年寄りを中心にした多くの落語ファンで賑わいました。

今年の出し物は、円楽門下で、テレビでおなじみの三遊亭好楽、三遊亭楽太郎の二人会。前座の三遊亭楽大に続いて、真打の好楽と楽太郎が相次いで高座に登場。

好楽は、父親の出身地が菊池郡大津町であることに触れ、東京に住む家族とそれを取り巻く、社会情勢をおもしろ、おかしく話し、楽太郎は、昨今、多くの日本人が、常識や秩序を忘れて勝手に振舞うさまを痛烈に批判し、安定した話芸で爆笑を誘っていました。



楽太郎さんの落語に館内は大爆笑